

はじめに

- ・ 学校は子供に「生きる力」をつける場所、という認識にたつ。
- ・ 生きる力を育成する前提として、以下の 4 つの**目指す学校像**を策定し、それぞれについて具体的な目標 と取り組み方策（数字）を設定する。・・・ A
- ・ 最後に、今年度の取り組み目標を設定する。・・・ B . C

A **目指す学校について** : 中期的目標 () その方策

1 学ぶ意欲や学ぶ喜びがある学校

学級学年経営の充実で、学ぶ集団を作る

- (1) 学年やブロック間、教職員間の協働体制づくり（協力・協調・意思疎通）
- (2) 学級のルール作る。（教師としての信念・しつけるところと考えさせるところのバランス）
- (3) 児童理解に基づく、分かる授業や楽しい活動等の実施と適切な評価
- (4) 教師の思い・児童の考えや感想等の情報発信（学級便り等で教師・児童・保護者の連携強化）
- (5) 配慮児童や支援を要する児童への適切な対応（特別支援教育の理解と校内委員会の充実）
- (6) 思いやりの心を育てる意図的計画的な道徳の授業実施と温かい雰囲気の学級作り
- (7) 教師としての自己研鑽

2 人やものに温かい感心を示し、それに基づく言動がある学校

地域や家庭と連携して、基本的生活習慣やルールマナーの定着を図る

- (1) 学校からの児童の活動の様子についての情報提供と保護者値域への啓発活動
- (2) 道徳の時間を中心とした、心の育成の意図的計画的な取り組みの実施
- (3) 健康な体作り（体育授業での運動量の配慮・休み時間の校庭での遊び・保健や給食指導）
- (4) 体験的活動の重視（地域から・人々から・本ものから・読書から学びの体験）
- (5) 家庭学習の推奨（学年にふさわしい宿題の量と内容・家庭での仕事分担）
- (6) 生活指導部や小中一貫の取り組みと分析
- (7) 社会の常識、社会通念を身に付けさせた上での個性尊重

3 校風のある学校（特色ある教育活動の推進）

高学年を手本として、低学年が進む学校

A 高学年指導を通しての校風作り

- (1) 異学年交流（縦割り活動・交流授業・活動披露・交流活動等）
- (2) 全教職員の理解と協力の下での高学年指導
- (3) 高めの目標を設定し高学年児童が努力してそれを達成していく過程で成就感を得させる。

B 交流活動で心や感性を育てる

- (1) ひまわり学級との交流
- (2) 本ものとの出会い（実体験・専門家・実自然体験等）の学習活動
- (3) 異学年交流・山形の長沼小学校との交流
- (4) 中学校との交流

4 明るく元気で笑顔のある学校（教職員からまず）

健康で明るい職場作りを通して、教職員としての生き甲斐をもつ

- (1) 無駄を省く努力をし、教材研究の時間確保
- (2) 事前準備や打ち合わせ等、また、長期休業日の有効利用で諸会議の能率化を図る
- (3) 子供との放課後の自由な時間や教職員の休憩時間確保の努力
- (4) 考え方が合わない場合も当然ある。それを考慮しながら、協調と連帯の組織活動を進める。
- (5) 子供の良さや仕事の成果を共有できる場作り
- (6) 教職員間、保護者対応、それなりの言葉遣いで気分良く話し合う雰囲気作り
- (7) 安全第一で衛生的な給食室。しかもおいしい給食作りで、感謝の心の育成と健康な体作り

B **今年度の取り組み方針と方策**

1 学校教育目標について、22年度に目指す具体的な児童像

「生きる力の育成を目指す」

- ・ **元気で明るい子供**...明るい挨拶ができる・仲間とかかわって活動する子供
- ・ **よく考え、創造力のある子供**...話をよく聞き、自分の考えを発表する子供・行動する子供
- ・ **思いやりのある子供**...人や物に温かい関心を持ち、行動表現する子供
- ・ **責任を重んずる子供**...目標を自覚し、目標達成のために行動する子供

* **生きる力とは**

確かな学力(基礎的基本的な知識や技能 問題解決能力や思考力判断力表現力 意欲)
豊かな心 健康な体

*学びの前提として、「学級経営の充実」「環境の整備」に努力しながら学校教育目標を達成していくことで「生きる力」を育成していく。

2 本校の実態

子供...話を聞き、考え実行する力はある。目標を明らかにして、タイミングを見計らって、ほめ、認めることで更に高い目標に向かうことができる。冷静な心の動きでの判断力、良心に基づく言動が課題。人やものに対する関心(温かい関心)がもっと欲しい。

教職員...子供のために努力する。協力する集団。職業人としての冷静な議論による結論と実行でより充実した組織体制作りが今後の課題。

保護者...学校への関心は高く、協力的。子供の学力向上、特に教科学習での学力定着を強く願っている。家庭での子育てで課題を感じる家庭もある。保護者同士で子供のいたずらや人間関係の調整ができにくく、学校を仲立ちとしたがる傾向はある。

地域...元PTA役員等の方々の力で、土曜サタデーで子供の遊び場を提供している。学校便りも各町内会に配布。子供たちの登下校の安全をも見守っていただいている。

長沼小の校風...数年前までの規律の無さや不真面目な態度の児童の様子から、高学年指導を強め、改善を図ってきた。今は、改善の努力が実り、低学年の見本となるよう、意欲的に努力する姿が高学年に見られるようになった。また、教師側の協力体制による高学年指導の成果もある。しかし、新たな課題として、新1年生等に見られる、育ちの環境要因や性格的要因での、集団生活ができにくい傾向の児童の増加がある。

本校の子供たちへの指導方法として、「鉄は熱いうちに打て」「厳しさを通り越しての達成感」を意識しながら指導すること。しかも、自主的な活動と思わせる手法をとりながら実施することが妥当と思われる。子供たちの力は全体的に高い傾向があり、この力を引き出し、実行できるところまでもっていくことが、本校教師の課題である。時に、教職員も、健康第一で心にゆとりをもちながら努力していきたい。

3 今年度の目指す取り組みと重点項目 (< > : 評価の番号と達成度)

印は今年度の重点を目指す。他は、常に努力し、現状改善を目指す。

(1) 明るい挨拶ができる児童 < 評価項目の肯定的ポイントを上げる >

生活指導の重点として年間にわたっての目標として、1.2 学期ごとの評価をする。

学校便りでは学期一回以上、朝会講話でも年間 3 回以上、挨拶励行を児童に指導し家庭に啓発する。また、小中連携して取り組みをする。

(2) 仲間と協力して活動する児童 < 評価項目で否定的な回答ポイントを下げる >

仲間とかかわりながら遊び、或は、学習することに喜びを感じる場の設定。

休み時間のグループや仲間との遊びの奨励。授業等での健康な体作りへの計画的指導。

小集団学習での意見交換の場や時間を学習活動の中に確保。

当番活動や委員会活動での達成感を感じさせる教師の働きかけ。

全校異学年活動や交流活動の充実。(縦割り活動照り高学年のリーダー性を育てる。)

(3) 話を良く聞き、考え、行動する児童 < 評価項目の肯定的ポイントを上げる >

授業中、話を聞く指導を徹底する。また、小中一貫教育の中でも指導体制を作る。

* 小中一貫では、年間を通して、各自のテーマ、グループテーマを追求し、年度末にまとめをする。

児童理解に基づく分かりやすい授業の計画的な実施。(週案提出とねらいの明確化)

考える時間を設定し、まとめたり、メモしたりして発表する場を意図的に設定。

学んだことを日常生活の中に活かそうとする指導や学級活動の充実。

学習ルールやマナーの指導、家庭学習や宿題の目的を理解させ、実行していく。

(4) 人やものに温かい関心もち、実行する児童 < 評価項目の否定的ポイントを 2 点下げる >

< 長沼小の校風作りと関係させて >

低学年の見本となる高学年指導を全校的体制で実施する。

道徳授業の充実で道徳的価値観の内面化と行動化を図る。

子供の良さや成長の成果を学年学級便りで発信し、成果や課題を共有する。

* 全担任が学級便りを 2 週間に 1 度以上の頻度で発行する。

全校朝会、学校便りで「豊かな心の育成について」、児童と保護者への啓発活動を行う。

適切な言語環境づくりの指導(差別的な或いはいじめの言動へは毅然たる態度で臨む)

* 年間、固定学級の教師の話を年間 2 回、学校便りで 1 回、差別偏見をなくす指導と啓発を行う。全校朝会では、優しい心・協力の大事さを年間通して児童に話す。

読書指導の充実。年間 2 回の読書週間の期間を設定し、集中的に読書指導に取り組む。読書の時間の工夫や朝時間での外部の方の読み聞かせの充実も図る。

(5) 目標を自覚し、達成のために努力する児童 < 評価項目の肯定的ポイントを上げる >

教育活動に対する、各学年学級に応じた具体的目標の設定と評価(教師・児童)

* 行事实施後の反省を狙いに即したものの、答えやすいものに変えていく。

学級の壁を越えた学年としての活動を重視し、学年全体としての達成感を持たせる。

* 教科指導の工夫と学年での体験活動、行事等の取り組みの工夫を行う。

学年学級便り等で成果や課題を共有し、達成感を得させると共に改善への道筋を示す。

保護者地域の方々と連携し、子供たちを認め励ます状況を作る。

* (情報発信と発表会等を設定し、子供たちの意欲を高める)

C **その他の努力事項**

1 **校内環境整備や給食室の衛生安全を常に意識して取り組む事項**

- (1) 安全な生活環境づくり...防災対策、校舎内外の危険物・危険個所のチェックと対応。
* 定例的な実施を確実に行う。
- (2) 教材や設備を使いやすくするために、整理・維持管理に努力する。学期末の作業日設定。
- (3) 敷地内の美化に努める。委員会児童の朝掃除実施や教職員の自主的対応。
- (4) 給食室の衛生と安全に配慮し、おいしく安全な給食を提供する。点検と激励
- (5) 給食を通して、食事の大切さ、健康な生活への意識を高め、感謝の気持ちも育てる。
* 食後の感想お礼等で給食室と気持ちの交流を図る。学期末に教職員の懇談会実施。

2 **学校外の力の活用を図り、本物との触れ合い・学びを通して、感性を鍛え、学校教育目標の達成を図る手立てとして、常に意識して取り組む事項と配慮事項**

- ・ 専門家招聘...各担当教師が児童への本物体験授業の充実を図る。音楽・図工・学校保健委員会・稲作指導・戦争体験談・鮭の解体・その他
- ・ 地域の人々...保護者の授業支援、昔遊び等で支援いただき、地域の中の学校づくりを進める。
- ・ 保護者地域の方々を招いて発表会...児童に目標を持たせ、意欲的に取り組ませる。
- ・ 地域の施設や自然を有効利用する...自然のすばらしさ、命の大切さ、公共精神を学ぶ。
* 公共のマナーや礼節を学ぶ機会とする。
* 道徳地区公開講座では、特別支援教育等についての理解を促す講演会を用意する。

3 **学校教育目標達成に向けた教職員の意識と体制を整えるため日々努力する事項**

- ・ まず教育公務員として、教師として、子供の成長に寄与する意識を高め、計画と実施・評価を実施する。また、組織的な活動の有効性を自覚し、学年の協力体制を中心にしながら、各分掌での協力を重視する意識を高める。
- ・ 保護者や地域の信頼を得ることが教育効果を高めることにつながることを十分に理解し、改善方法を実行する。その中で共通の取り組みとして、指導する者の思いや学級の子供たちの様子や成果・課題を知らせること(情報発信)を今年度の重点としたい。また、年間一人1回以上の地域行事参加を計画する。
- ・ 子供の良い変化、つまり成長を喜びとして、自己の生き甲斐と考え取り組む雰囲気作り。
- ・ 教職員の和を大切にしながらも、相手の立場や状況を考えた言動で、最善の方法を探る雰囲気を作りたい。愚痴や言いたいことが言える雰囲気をも作る。
- ・ 教育計画に基づく、自己申告や教育実践を行い、全体として調和が取れた長沼小学校の教育を実施する。

4 **取り組みに対しての評価を実施し、成果や課題を明らかにする。**

- ・ 児童、保護者、教職員に共通の評価項目とそれぞれ特有の評価項目でアンケートを実施する。
- ・ 児童は、自分のことを、保護者は我が子と長沼小児童全体を考えた回答を、教職員は主に自分の取り組みに対して考え各質問項目に回答する。
- ・ これまでの学校評価を見直し、自己評価やアンケート結果を中心に、成果や課題を明らかにして、次年度の教育方針を定め、教育課程を編成していく。

5 **校長として今年度の特に努力すること**

教職員のサービスの厳正と健康管理

保護者地域の信頼や協力の気持ちを高めるために、保護者地域に校長室から、学校の様子や感じたこと思ったこと、啓発的な事柄等「コラム的なお知らせ」を2週に1度は発信する。また学級だより等の学級学年情報発信を更に進める。

校内の美化、特にホコリ対策。

日々の巡回や授業観察を通して、各教職員の様子を把握し、声かけをして、良さを褒め、認める。